



生活に密着した動物だけに鞍、鏡、鞭、馬車等の馬具も切手になっている。分類すると切手のために描かれたものが約40種、切手になった文化財に描かれているもの約40種、郷土玩具として描かれたもの約13種、馬具として4種等である。馬を動物の種として描いた切手はなく、強いて探すとシマウマであろうか。在来種としての野生馬（？注）は風景の中に描かれた尻屋崎の寒立馬（かんだちめ）、都井岬の御崎馬（みさきうま）ぐらいであろうか。

今年は午年、年賀状を整理していて、小学校の頃、お小遣いはたいて買った競馬の切手を思い出した。1948年発行競馬法公布25周年記念切手である。ひどいオフセンターだったが



我慢して買ってしまったことを思い出す。ふと、馬がどのくらい、どのように切手に描かれているか気になった。

約420種の切手に動物が描かれている。そのうち約100種の切手が馬に関係している。この数は2番目の犬をかなり引き離してのトップである。しかし、描かれ方が他の動物と異なるようである。動物で唯一、馬と文化というシリーズ切手が発行され、競馬という姿で多く発行されていることである。



尻屋崎の寒立馬



都井岬の御崎馬



カブトヤマ



シンザン



切手のために描かれた馬術競技の馬



文化財の中に描かれた馬尾形光琳作 佐野渡硯箱



郷土玩具の馬



小判切手2種の4隅に描かれた馬具の鞭・蹄鉄

これに反して競馬馬は文化財の中に描かれたものも含めて8件20種も発行されている。しかも、どういう訳か個体を特定できるという人間並みの扱いで多くの馬が発行されている。

そんな競馬の中に近代競馬でなく古代の競馬（？）とでもいうか京都の賀茂別雷神社（上賀茂神社）で毎年5月5日に行われる1093年から続いている賀茂競馬（かもくらべうま）という天下泰平五穀豊穰を祈願するための儀式が3種の切手となっている。2002年切手趣味週間切手2種と馬と文化シリーズ切手16種のうち

の1種である。どの切手も疾走する馬が描かれており、現在の競馬を連想させてしまうが、どうも違うらしい。競うことは競わせるが2頭だけで行うらしい。その様子を知りたく永年、切



2002年切手趣味週間切手

手趣味週間切手の原画六曲一双の「賀茂競馬図屏風」の屏風の画像を探していたが美術書、図録等に掲載はなく、所蔵館 馬の博物館のご厚意で知ることが出来たので会員諸兄姉にもご鑑賞いただきたい。

切手は右隻の動的な部分であり主題部分といえる、競馬の二つの場面(第三扇及び第五扇)を取り上げている。のんびりとした見物人の風景と馬場の様子は切手だけでは思い至らない風景である。

また、馬と文化シリーズ賀茂競馬模様小袖の白縮緬地石畳に賀茂競馬図文様の鮮やかな色どりからこの祭事のにぎやかな一面も感じることができる。

乗用・騎馬以外に家畜としての馬が描かれて



上 「賀茂競馬図屏風」の屏風左隻

下 「賀茂競馬図屏風」の屏風右隻





小袖 白縮緬地石畳に
賀茂競馬図文様
京都国立博物館蔵
馬の博物館
近代競馬 150 周年記念
「くらべ馬展」図録
より



胴引きする馬

いるものを探すと農耕馬の姿はなく、倉吉地方に残るのであろうか"胴引き"を描いたふるさと切手だけである。家畜としては荷役、運搬に働く馬がすべてである。

ここで注意され

ることが2つある。1つは荷役運搬を描いたものはすべて浮世絵であることである。浮世絵が江戸庶民の生活を描いたものであることを如実に感じさせてくれることである。浮世絵になった切手の中に別の動物が荷役運搬に活躍している姿が見える。それは牛である。そして荷役運搬に新たなものが使われている。それは車輪、牛車（ぎゅうしゃ・荷用）である。また、江戸時代以前を描いた絵巻、屏風に精巧なスポークを持つ車輪をつけた牛車（ぎっしゃ・乗用）が描かれて切手になっている。しかし、馬車は見当たらない。馬車が描かれた切手は10種あるが、1種をのぞきすべて明治維新後の社会の情景を描いた絵画が切手になっている。明治期の郵便馬車、鉄道馬車から現在の観光馬車まで切手に多く取り上げられている。ここに、日本史の1つの謎「なぜ明治期なるまで日本に馬車がなかったか」という問題を切手の上でも捉えることができる。日本の地勢、気候、騎乗を伝えた人種、馬の種類、日本人の性格等から議論がされているが、これらは幕末



牛車（ぎっしゃ・乗用）が描かれた切手

1992年国際文通週間 国宝
平治物語絵巻



江戸時代の牛の荷役運搬に活躍を描く浮世絵の切手

2003年国際文通週間
広重・浮世絵 大津



2001年国際文通週間
広重・浮世絵 坂之下



馬と文化シリーズ
北斎・浮世絵 武州千住図



牛車（ぎっしゃ・乗用）が描かれた切手

第2次国宝シリーズ 源氏物語関屋滯標図切手
 俵屋宗達源氏物語関屋滯標図屏風原画 右隅に牛が待機している

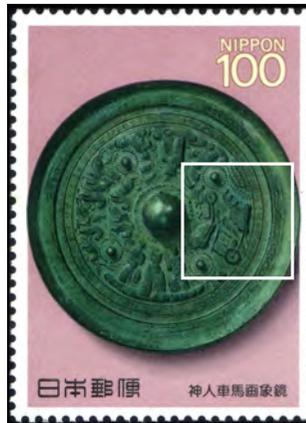


2007年郵便民営会社
 発足記念
 郵便現業絵巻郵便馬車
 積込風景



1971年国際文通週間
 東京鉄道馬車図

明治になって初めて
 走り出した馬車



1989年第3次国宝シリーズ



車が描かれている。恥ずかしながら、電子画像で拡大してみてもはじめて知ることができた。切手をもっと丁寧に調べ、考えることの大切さを痛感させられた。

(編集子)

開国以降の馬車の急速な普及、発展を説明出来なく、政治的、経済的な要因であったと考えられてきつつある。関西では江戸で普及していた大八車が普及しなかった理由とも関連付けられている。牛車は日本書紀に記されているという。では、馬車は日本に伝わってこなかったのかという疑問を持つが、この疑問は1枚の切手からも答えが得られそうである。少なくとも馬車の存在をその姿、形で古代から知り得たという。その切手は第3次国宝シリーズ青銅鏡”神人車馬画象鏡”の切手である。拡大してみると右側に3頭立ての馬

注・家畜馬が逃げ出し繁殖した馬。本来の野生馬は世界にモウコノウマのみ。このモウコノウマ、モンゴルでは絶滅し、世界中の動物園にいた種を集めモンゴルで繁殖を試み300棟近くまでになっている。

参考文献

理系の視点から

板倉聖宣 日本史再発見 朝日選書